

そこのみちどもとるればかのづゝ此四佛の徳を備へる由
鷹匠を加へく五佛と云ふもそけとそれ家くそのまゝく
ゆくのみち皆強言成べし鷹のるみ惣論なむと新
修鷹經序又新增鷹鵠方春秋運斗樞古樂府白
鷹記等の和漢のふしに書み出さるるきさく
かけ鷹しけうげを惣く鷹の鳥を捉をかうと云下より
さうとく落しき也先古經よるべきう鷹の書よハ鈴七嶺
隔くさえある事よひ尚未ふらうくあるも又平らの
鷹の故事よいこれどつとも詳なむ草取と云詞を
たくら萬葉集十卷よツキヨヨミナクホトキスミカホシエワレクサ月夜吉鳴霍公鳥欲見吾草